

巻頭言

「水環境」と「自転車」を キーワードにしたまちづくり

高松市長
大西 秀人



高松市は、かつて新渡戸稲造が「世界の宝石」と評した美しい瀬戸内海に臨み、風光明媚な自然に恵まれ、四季を通じて温暖少雨な瀬戸内海気候区に属した中核都市です。そのような本市の目指すべき都市像を「文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松」とした新しい総合計画に基づくまちづくりが昨年4月からスタートしています。その中で、本市の特徴的な取組みである、「水環境」と「自転車」をキーワードにしたまちづくりの一端を御紹介します。

本市を含む香川県は、気候的に雨が少ない上に、降った雨も地勢の関係で、すぐ海に流れ込むことから、先人は、水を確保するため多くのため池を造るなど、昔から水には大変苦勞してきた土地柄です。早明浦ダムができ、香川用水が導入された後でも、地球温暖化による異常気象の影響もあってか、近年においてもしばしば渇水問題が顕在化しています。

このため、改めて、これからの本市と水との関わり、付き合い方をどうすべきか再検討し、水に関する施策を再構築すべく、学識経験者や、海、川、ため池、森林、上下水道など、水にかかわる様々な関係者が一堂に会する「高松水環境会議」を、昨年2月に設置しました。会議では、公募の市民も交えて「水に学び」、「水を育み」、「明日につなげる」の3つのワーキンググループをつくり、先人から受け継いできた、高松ならではの水の文化や水と人との関わり方を学び、自然を守りながら、水を大切にすることを育み、より良い高松の水環境を将来の世代に引き継いでいけるように、議論を深めているところです。今後も幅広い観点から検討を重ね、持続可能で豊かな水環境を創出するための提言を取りまとめていただき、本市の水に関する各種施策に反映することとしております。

一方で、温暖少雨という気候に加え、本市の市街地は平坦な地形が多いことから、通勤、買い物、レジャーなどに自転車を利用する人が多く、自転車の保有率や利用率の割合は、全国トップクラスを誇る都市でもあります。また、7ヶ所のサイクルポートにある約1,000台の自転車が、一日平均約850台稼働している本市のレンタサイクルシステムは、最も成功している例の一つとされています。ただし、自転車に関係する交通事故も非常に多いのが悩みの種です。

また、このように高松市民にとって最も身近な乗り物である自転車は、地球温暖化の要因である二酸化炭素（CO₂）を排出しない環境に優れた交通手段でもあることから、これからの都市交通を考える上で、これまでも増して重要な要素になってきます。そこで、これまで以上に自転車の持つ利便性を享受できる都市環境の創出を図っていくために、昨年、国、県、警察関係、民間団体等と連携し、「高松地区における自転車を利用した都市づくり計画」を策定しました。今後、この計画に基づき、マナー向上のための安全教育の充実などのソフト事業と自転車走行空間の確保を始め、レンタサイクル事業の充実やサイクリングルートの設定などのハード事業を組み合わせながら、快適な自転車利用の環境整備に取り組んでまいります。そして、過度に自動車に依存しない、徒歩や自転車と公共交通機関が有機的に連携した都市づくりを目指す中で、新たな本市の自転車文化を築いてまいりたいと考えています。

「水環境」と「自転車」をキーワードにしたまちづくりを始めとして、だれもが暮らしやすく、訪れたいと思える、人と環境にやさしいまちづくりを、積極的・効果的に推進してまいりたいと思います。

